



浦和大里小学校だより

12月号 令和7年11月28日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成



12月のプレゼント

校長 中野 緑

朝晩の冷え込みが厳しくなりました。校庭の木々も葉を落とし、すっかり冬支度です。正門で落ち葉を掃いていると、5年生の男の子が「ありがとうございます！」と声をかけてくれました。思いがけないプレゼントをもらったようで嬉しくて、寒さも吹き飛んでしまいました。

校内を歩いていると、子どもたちが数名で頭を寄せ合い、何やら話をしている場面によく出会います。子どもたちの会話に耳を澄ませてみると、楽しい話が大半ですが、悩みごとを話し合っていることもあります。友達とのこと、勉強のこと、自分自身のこと、など…。友達に話を聞いてもらうことで悩みの種を上手に取り除ければよいのですが、うまくいかないことももちろんあります。そんなときは、周りの大人のちょっぴりの手助けが必要です。私が先輩から学んだ方法はとても簡単です。まずは相手の話した言葉をそのまま返すのです。

「(怒った顔で) ○○さんがこっちを見る。」

「そう、○○さんがあなたを見るの。」

「なんか、数人でこっち見ながら、こそこそしゃべってて・・・。」

「あなたを見ながら、何をしゃべっているのかが気になっているのかな。」

「そう。悪口言われてるのかも・・・。」

「○○さんたちが、あなたの悪口を言っているのかもしれない、と気にしているんだね。」

曰く、「そんなに気になるなら聞いてみれば。」「そんなに気にすることないよ。」などのように、大人としての意見は差し挟まず、しばらく聞き続けることが肝心なのだそうです。

また、子どもと話していると、「それくらい・・・。」と思ってしまうようなたわいもない相談の最後に、本当の悩みがひょいと顔を出すこともよくあります。相手が発した肝心な言葉をオウム返しにすることで、本当に悩んでいることが、子ども自身にも分かってくるようです。

「まずはまるごと受け止める」という行為は「あなたの言葉を聴きたい」「あなたの気持ちを理解したい」という思いを相手に伝える時間でもあります。まるごと受け止めてもらう時間は子どもにとっての最高のプレゼント。そのことに勇気づけられてゆっくりと言葉を紡いでいるうちに、解決の糸口が見え始め、自分自身のやることが明確になると、子どもの笑顔が戻ってきます。また、心のもやもやを暴力やいじめなど間違った方向で表出してしまう子どもにとっては、言葉でそれを説明することができるようになるための大切な練習にもなっていると感じます。

令和7年が終わります。子どもたち(大人も!)それぞれの頑張りが積み重なった1年だったと思います。どうぞゆったりと、子どもとの会話を楽しみ、言葉のプレゼントを贈り合う冬休みにしてください。